

## 才能がある若者のチャンスについて、ピアノ弾き YouTuber から考える

5月22日（日）の夜、NHKのEテレで『クラシック音楽館』を見ました。『次世代の挑戦者たち』というタイトルで、若い演奏家であるバイオリンのHIMARIさんと、ピアノの亀井聖矢さんが、それぞれのNHK交響楽団と共演し、チェロアンサンブルXTが演奏するという内容でした。

HIMARIさんは2011年生まれで、今年11歳のバイオリニストです。コロナ感染症のために国際的な音楽コンクールが開催できなくなる前の2019年までに、第20回シェルクンチク国際音楽コンクールで1位になるなど、39のコンクールで1位という快挙を成し遂げたということです。第20回シェルクンチク国際音楽コンクール一次予選のサラサーテ「ツイゴイネルワイゼン」、二次予選のパガニーニ「バイオリン協奏曲第2番第1楽章」、決勝のパガニーニ「バイオリン協奏曲第1番第1楽章」の全ての演奏動画がYouTubeにあり、視聴することができます。当時8歳のHIMARIさんの演奏動画を視聴すれば、天才バイオリニストとして高い評価がされるのも首肯できます。

Eテレでの演奏はメンデルスゾーン「バイオリン協奏曲ホ短調」でした。このバイオリン協奏曲は、数多く存在するバイオリンの曲の中でも有名な曲で、バイオリン経験がある人は、この曲を完璧に弾きこなしてみたいと憧れるのではないのでしょうか。

EテレでのHIMARIさんの演奏は、「すばらしい」の一言につきました。

完璧な演奏技術と豊かな音楽的表現は、アーティストとしてすでに一流の域に達しているように感じます。「まだ10歳なのにすごい」とか「小学生とは思えない」といった類の感想を持つこと自体が、一流の芸術家に対してきわめて失礼な感想で、場違いな感じがします。

演奏を聴きながら、私が中学生だった頃、このメンデルスゾーン「バイオリン協奏曲」のレコードを欲しくて、お小遣いを貯めてレコード店に行ったことを思い出しました。今から50年近い前、音楽はレコードで聞くもので、1枚3000円以上するクラシックのLPレコードは、中学生にとって高価でなかなか購入できませんでした。だからこそ、やっと買うことができたときの喜びはとても大きくて、宝物のように家に持って帰った思い出が、HIMARIさんの演奏を聴いて、フラッシュバックのようによみがえりました。それくらいHIMARIさんの演奏にパワーとエネルギーがあったということです。

一方、亀井聖矢さんは2001年生まれで、今年21歳になるピアニストです。

Eテレの中で10歳の頃の演奏の紹介があり、「天才ピアニスト」としてもはやされた時期があったこと、けれども、成長の過程で自分の演奏の限界を知り、それを超えるための努力をしたことが触れられていました。その努力の結果として、2019年の第88回日本音楽コンクールで優勝し、今年の第67回スペイン・マリアカナルス国際コンクールで第3位になったということでした。

Eテレでは、スペイン・マリアカナルス国際コンクールの決勝で、亀井聖矢さんがラフマニノフ「ピアノ協奏曲第3番」を演奏している映像が流れました。

ラフマニノフの「ピアノ協奏曲第3番」も、ピアノ協奏曲としてとても人気がある曲で、きわめて高い技巧と華やかさと力強さ、あわせて演奏の重厚さがピアニストに求められる曲で、この曲をレパートリーとしてオーケストラと共演できるピアニストはすでに芸術家として一流であると思います。スペイン・マリアカナルス国際コンクールでの亀井さんの演奏も YouTube で視聴することができ、20歳の若者が演奏するラフマニノフを堪能することができます。「同じラフマニノフのピアノ協奏曲でも、2番でなくて3番を20歳の若者が演奏する姿に魂が震える」とクラシックマニアが言いそうなぐらいの素晴らしい演奏です。EテレでのNHK交響楽団との共演でも、ラフマニノフ「ピアノ協奏曲第3番」を演奏し、聴く者に迫ってくる演奏にしばし時間を忘れました。

亀井聖矢さんの演奏を聴きながら、最近注目を集めている若いピアニストが多いことに気が付きました。

Eテレの亀井さんのスペイン・マリアカナルス国際コンクールの演奏の際に、ピアニストの角野隼斗さんが駆けつけている映像と、インタビューが紹介されました。角野隼斗さんの経歴は、ピアニストとしては異色で、開成から東大に進学し、東大在学中、東大大学院在学中からピアニストとして活躍している方です。音楽活動の場として YouTube を活用し、ジャンルにこだわらない活動をしていて、YouTuberとして多くの音楽好きの人の関心を集めています。

角野隼斗さんのように、YouTube を活動の場として利用するピアニストはとて多くいるようで、「ピアニスト YouTuber」で検索すると、「よみい」「ハラミちゃん」「けいちゃん」といった名前が次々とヒットします。そして、これらの「ピアノ弾き YouTuber」の活躍の様子は、YouTube だけではなく、最近ではテレビで見ること多くなりました。

なぜこんなに急に「ピアノ弾き YouTuber」が出現するようになったのでしょうか。

インターネットでは、駅などの公共の場所にストリートピアノが設置されるようになり、ストリートピアノでの演奏を YouTube にアップすることで話題となり、多くの人に関心をもたれるようになったのではないかと、といった意見が多く見受けられました。

私もその意見におおむね賛成ですが、間違いなく言えることは、「ピアノ弾き YouTuber」たちは、みんな演奏の確かな技術を有していて、ストリートピアノで演奏する音楽だけでなく、おそらくクラシックのピアニストとしても十分に通用する人たちだということです。

角野さんは第42回ピティナ・ピアノコンペティションで特級グランプリ、リオン国際ピアノコンクールで第3位となっています。他の「ピアノ弾き YouTuber」の方たちもチャンスがあれば、国際音楽コンクールやコンテストで入賞するような力をもっているのではないかと想像します。

この「チャンス」があるかどうかは、若者にとって非常に重要です。

小石川の生徒たちは、海外留学がいかにお金がかかるかをよく知っています。

ピアニストとしての才能をもっている、経済的な支援が無ければ、海外の有名な音楽学校に入学し

てより高いレベルの指導を受けることができませんし、国際音楽コンクールに挑戦することもできません。芸術家を志す日本の若者の中には、才能があっても経済的な理由などにより、チャンスを得ることができず、認められることがないままの人もいるでしょう。そんな中で、YouTube は、才能がある若者が自分の才能を多くの人に視聴してもらい、世の中に認められるチャンスのある場であるのかもしれませんが。

小石川にはいろんな分野の、いろんな才能のある若者が大勢いて、そうした才能を発表する場として、SSH 事業や紫友同窓会の支援を受けて、海外で開催される国際的な科学コンテストへの出場ができたり、海外大学に留学することができる奨学金に挑戦したりするチャンスがあります。

今年の夏にも海外で開催される国際科学オリンピックに参加予定の生徒もいます。

5月30日には小石川に、イギリスの大学に留学する高校生への奨学金を支援してくださる Tazaki 財団の方が、来年度に向けた留学生の募集について、説明にいらっしゃいました。小石川でも多くの生徒が過去に Tazaki 財団を利用しています。

小石川の生徒たちには、自分の才能を世の中に示していくチャンスがいろいろとあります。ぜひ自分のチャンスを見つけて活用してもらいたいと思います。